

平成30年7月豪雨被災地へカンロのCSR活動

愛媛県西予市の子どもたちへ出前授業を実施しました

平成30年7月豪雨災害によって被災した愛媛県西予市には、いまだ避難所生活を送っている子どもたち、夏休みに遊びに出かけることができていない子どもたちが多数いらっしゃいます。地域の振興に少しでも貢献し、被災した子どもたちが笑顔になり、ささやかな夏休みの思い出になること、また、災害に負けない未来への前向きな心を育む応援をすることを目的として当社のオリジナル教育プログラムを実施いたしました。

■西予市の被害状況

今回の豪雨における西予市での被害は、死亡者5名、住家被害（全壊）125棟、住家被害（半壊）294棟、住家一部破損22棟、床上浸水27棟、床下浸水220棟（2018年8月31日時点）。実施会場である野村公民館横の野村小学校には100名近くが避難しておられました。陥没した道路、土砂崩れ、川には流された大量の木が点在しており、また廃校になった小学校のグラウンドに仮設住宅を建設していました。



■未来をになう子どもたちへのキャリア教育

今回は、当社のオリジナル教育プログラム「カンロ飴を届けよう～キャンディの裏側～」を野村公民館と下宇和公民館の2か所、小学1～6年生計68名の子どもたちに向けて授業をおこないました。当社は、創業から100年以上に亘り、「キャンディが人と人がつながるきっかけとなってほしい」との思いをもって、カンロ飴やのど飴等のキャンディを世の中に送りだしてきました。このオリジナルプログラムでは当社の一連の企業活動を通じ、キャンディが届くまでにどれだけ多くの人がつながっているかを学ぶことにより、子どもたちが自分の考えをしっかりと持ち、多様な人とつながっていく人になってほしいという思いを込めています。また今回の災害により被災した子どもたちには、このプログラムを通して学んだことを胸に、これからの未来を歩んでほしいと願いを込めて、実施させて頂きました。



■西予市教育委員会ご担当者より

カンロ株式会社の皆様には、7月豪雨災害により被災した野村地域と下宇和地域の子どもたちのために、直ちに教育プログラムの支援をいただき厚く御礼申し上げます。参加した子どもたちは、キャンディに関わる様々な仕事について、体験をしながら楽しく学ぶことができました。企業の方から食品の取扱いや仕事の大変さを伝えていただいたことは、子どもたちの職業観に良い影響を与えたことと思います。本当にありがとうございました。

■参加した子どもたちのコメント

- ・キャンディの仕事を教えてもらって楽しかったです。また来たいです。
- ・味覚検査や工場でどうやって働いているかを学べて良かったです。
- ・楽しく学べておもしろかったです！
- ・カンロ飴がしょう油で作られていることが初めて知りました。
- ・アメのつつみ方がすごかった！教えてくれてありがとうございました！

車で向かっている途中、木が流され、崖が崩れ、道路が陥没している様子を目の当たりにして異様な光景が広がっていると感じ、子どもたちは元気なのだろうか…と心配しました。しかし、会ってみると溢れるほどの元気と笑顔にこちらが元気を頂いてしまいました。しかし、今回の災害で被害はもちろん、お祭りや盆踊り、プールなど夏休みの楽しみにしていたイベントも次々と中止となっており、目に見えない傷が子どもたちの心に残っているのではないかと感じています。今後も引き続き、平成30年7月豪雨被災地への支援をおこなっていきます。

CSR 担当：経営企画部 木村恵子